

## II 本部よりのご連絡とご報告

### 1. 事務局スタッフ:

徳重さんの後任として、7月29日より米田恭子さんが週2回のペースで勤務されています。主として連合会ニュースの編集を中心ですが、東京銀杏会の事務も一部担当されます。よろしくお祈りします。

### 2. 五神総長の著書「大学の未来地図～知識集約型社会を創る」を配布

「大学の未来地図～知識集約型社会を創る」(ちくま新書・本体価格760円+税)を全ての会員同窓会会長・事務局に配布しております。帯紙には「今こそ、大学の出番！大学のポテンシャルを社会変革へと結びつけることで、日本はまだまだ闘える～東京大学総長によるまったく新しい大学論！」とあります。総長著書で文庫本になったのは初めての試みで、大学経営の多様な問題について、とてもわかりやすい文章と時々ソフトなコラム等を通じて知ることができます。同窓会については何も触れていない現総長の方針を理解することも、同窓会の在り方を考えるきっかけになると思います。同窓会関係者としては必読の書としてお勧めです。



### 3. 東京大学新聞定期購読の母校寄贈キャンペーン 第一号は鎌倉の石川さん 感謝！！

前号でご案内した下記の呼びかけに対し、第一号は鎌倉淡青会会員の石川勝己さん(S42文)が母校愛知県刈谷高校宛の2年間定期購読寄贈です。東大新聞社も既に100校ほどの高校に定期購読を実現しておりますが、皆様もよろしくお祈りします。

「最近、地方の公立高校からの東大進学が少なくなっており、特に、女子学生の進学が増えず、大学のみならず地域同窓会にとっても頭の痛い問題となっております。

大きな理由の一つは、大学に関する情報、特に学生生活一般に関する情報が届き難く、進学不安に拍車をかけている為かと思われます。もし、学生(編集者)視線で捉えた大学での勉強・学生生活の情報を、年42回、母校学生に届けることができれば、有効な解決手段になると考えられます。東京大学新聞の年間定期購読料7300円は、キャンパスツアーや現役学生母校訪問よりはるかに費用・情報効果があると思います。具体的には、地域同窓会会員有志が定期購読料を負担して東京大学新聞を出身高校に届け、間接的に地方学生・女学生の東大進学促進を図り、併せ、母校と地域同窓会の絆を高めるキャンペーンの推進です。各事務局へは、母校送付先・請求書宛先を記載する定期購読申込書と東京大学新聞のサンプルをお送りしましたので、幹事会や総会の機会に皆様にお声かけをお願いします。」

### 4. ホームカミングデイ企画について

本年のホームカミングデイでは、赤門市長会との共同企画が無いこともあり、連合会も特段の企画をしない予定でしたが、大学との関係を考慮して、連合会用テントをレンタルして(2万円)、①地域同窓会入会勧誘、②在京県人会設立呼びかけ、③東大新聞母校寄贈キャンペーンを行うことにしました。各会の入会活動には本部の手が回りませんので、皆様のご協力をお願いします。

### 6. 東京六大学交流促進

東京六大学交流は東大同窓会設立の契機となったケースが多く、新たになにか企画したい会の参考にと、各会から特に式次第を中心に情報を集めています。既に、北海道、函館、青森、仙台、山口などから情報が集まっていますので、別途事務局宛メールで皆様に紹介します。

会の活性化という点からは、よくあるお互いの総会などへの一部役員を相互出席を一步進めて、各校が幹事持ち回りで行う六大学主催の集まり(新年会やゴルフ大会など)で、より多くの会員が集まるよう進めることが重要と考えています。

### 7. 山上会館改修募金者銘板

昨年、山上会館改修募金のご協力頂き、22の会より72万円が集まりました。大変ご報告が遅れましたが、ご寄付頂いた同窓会のお名前を記載した銘板の写真をお届けします。残念ながら、この写真では個々のお名前がよくわからないと思いますが、山上会館二階の階段を上った正面にありますので、機会があればご訪問ください。

